

●島根県「石見神楽」

高津神楽社中

「東京公演をしてみて」 中学2年生 湊菜月（手拍子）

私は、神楽をこんなに家から離れてするのは今回が初めてでした。なので、前日の夜はとても緊張しました。周りの神楽そのものを初めて見た人の目には神楽がどう映るのかがすごく気になったりもしました。

本番当日、出番待ちで他の団体の方の舞台を見ていて私が特に興味をもったのは、大宮神楽です。同じ神楽ではあるものの、石見神楽とは全く違い驚きでした。まず、舞いの感じが違った事と衣装が全く違って「同じ神楽なのに」と不思議に思います。島根と岩手とで本当に東京よりも遠く離れているのに全く違った感じがしたけれども何かつながりがあるようで何だかすごいなあと思いました。

本番、始めは少し緊張していたけど途中からは、いつも通りに演奏でき良かったです。

本番が終わった後、同じ団体の方がリハーサルの時の話をされて、「リハーサルのフィナーレでインド舞のような団体の子達が神楽の音楽に合わせておどっていたよ。やっぱり神楽の音楽は楽しい音楽なのだろうね」と話されました。私は、その神楽で演奏している一員である事に対して少しほこらしくてうれしいです。

そして、私は今、この神楽をもっと色々な人に見てもらえる何かお手伝いが出来たらいいなと思います。

この東京公演で、様々な伝統文化を見る事を通じてまた新たな良さを見つける事ができて良かったです。

「東京公演」 小学5年生 永井郁（鬼）

初めて東京に行って、初めて東京の日本青年館ホールで、塵輪のはんにゃをいっしょうけんめい舞いました。

それで日本青年館ホールに行くまで13時間ぐらいかかりました。そして行くまでみんなで話していました。

そして、あと少しでつくところがかたがいたかったです。

ついてリハーサルをしているとほかのところがずっとこっちをみていて、はずかしかったです。

それで本番できんちょうしてたけど、舞っているとちゅうできんちょうがなくなって、舞っていました。

それで舞い終わったら大汗をかきながら、ぶたいにみんなで手をふりながらでました。

そしておわってみてる人がはく手をいっぱいしてくれてうれしかったです。

中学2年生 齋藤颯希（大太鼓）

この東京公演でまず良かったなと思う事は、大太鼓をしっかりと良い音をだせたことです。音程もしっかり合っていて練習どうりできたと思います。

大太鼓をやっている時の改善点は、声をもうちょっと出せたらいいと思いました。

たくやくんのようにしっかりと声を出せるようにしたいです。

あと、大勢の人たちの前でもはきはきとしゃべれるようにしたいです。本番の前ではこの高津神楽社中紹介のセリフを覚えてはいたけど、本番になると、プレッシャーであせって止まってしまったりかんだりしてしまうからプレッシャーにも負けないくらいの意地を身につけたいです。

そしてぼくと宙は子どもの中では、上の方だから、しっかりと状況を見て、判断できるようにしたいと東京に行って感じました。バスの中のマナーとかホテルでのマナーとか、そういうところをしっかりとできれば良かったなと思いました。

あと、ぼくがちょっとはずかしいなと思った事は、オープニングの時に並んでいて両サイドの人たちがすごく大きい人で真ん中で立っていると、少しはずかしいなと思ったので、しっかりと大きくなりたいと思います。

最後に、東京に行ってこれしていけばいいと思う事は、あいさつです。

やっぱりあいさつはすごくいいことだと改めて思いました。

これからもどこでもあいさつをきちんとできるように心がけていきたいです。

「東京での神楽公演について」 小学6年生 福原天翔（小太鼓）

8月20日に日本青年館ホールで、『ぼくたち、わたしたちのニッポンの祭り2018』というのがあり、それに高津神楽社中の子ども神楽が中国四国代表として出ることになり、ぼくも参加しました。

ぼくは、中・四国代表として出るときいていままで練習してきたことや、いろいろなところで公演してきたことが、認められたような気持ちがして、とてもうれしかったです。

それからの練習では、ぼくは小太鼓だったので、大太鼓の音をしっかりと聞き、笛ともリズムを合わせることをいつも以上に意識して練習しました。ぼくは、小太鼓をたたいている時に舞とリズムだけに集中してしまい、太鼓のまん中じゃない所をたたいてしまうため、まん中をたたくことで大きな音が出ると、指導をうけそこにも注意しました。

本番前、練習で意識していたところが、ちゃんと出来るか、すこし不安だったけど練習してきたことを、出せるようにおもいきりたたきました。いつも以上に大きな音が出せたのでうれしかったです。

『ぼくたち、わたしたちのニッポンの祭り』に参加することで、いろいろな地域の人に石見神楽をしてもらい益田市の発展につながったらいいなと思います。

「東京公演」 小学6年生 松本結翔（高麻呂）

日本青年館ホールで石見神楽の「塵輪」を舞いました。東京での公演では、あまり緊張

はしていなかったけど大舞台で舞うのは初めてだったのでとても楽しかったです。僕は塵輪で高麻呂をしました。僕は高麻呂を何回も舞った事があるのでよかったと思いました。僕は本番前色々な他の団体の今にでも伝わる伝統芸能を見ました。とても他の団体の伝統芸能を見た時自分も「がんばらなくては」と思いました。本番で東京都内の人達や県外の人達などの方々が観に来てくださっていたので伝統芸能は大切な物なんだなあと思いました。

ぼくは伝統芸能という物を日本中や世界中に伝えたいと思います。なのでこれからは、伝統芸能を大切にしたいと思います。これからは石見神楽を真剣に取りこんでいきたいです。これからも石見神楽の練習がんばりたいと思います。

「東京公演」 小学6年生 内田実夢琉（鬼）

ぼくは、東京に初めて行きました。東京はすごく人が多くてビルもいっぱいありました。

ぼくたちがでた『ぼくたち、わたしたちのニッポンの祭り2018』で石見神楽をしました。ぼくはじん輪の大鬼をしました。ほかの県の文化芸能を見てたらこんな文化芸能もあると知りました。ぼくたちは一番最後にまいりました。ぼくは心ばいになりました。なぜかという口上とたちあいをまちがえたらどうしようとなりましたが、まちがえず全力でできたので良かったです。東京の人に石見神楽の良さを伝えられたと思います。来年もぼくたち高津神楽社中が選ばれるようにがんばります。

「東京公演、観光」 中学2年生 永井宙（仲哀天皇）

ぼくは、日本青年館ホールで塵輪という石見神楽をひろうしました。

ぼくは、石見神楽を世界の人にひろめたいと思って高津神楽社中という団体に入りました。

塵輪という代表的な演目は石見神楽の中でも人気のある神楽を東京の人に見せました。

ぼくは、最初、緊張してドキドキしていたけどまっているときは、緊張がほぐれて、まわるときが楽しかったです。

東京公演が終わって疲れしました。

ぼくは、東京に行って雷門や丸ビルに行きました。そのほかにはとバスツアーに乗りました。はとバスツアーでレインボーブリッジに行ったり、フジテレビを見ました。

レインボーブリッジから見える景色がすばらしかったです。

「東京」 中学2年生 寺井咲希子（笛）

私は、初めて東京の日本青年館ホールに行きました。日本青年館ホールはすごく広かったです。なので、すごく緊張しました。

バスで12時間以上かけて東京へ行き、一日東京で遊びました。バスに乗っている時は、大変でした。でも、東京をまわって、色々なところを見て益田と全ぜんちがって、ビック

りました。でも、楽しかったです。

神楽では、塵輪をしました。

リハーサルでは、どのようにするか分からなくて、不安だったけれど、思ってた以上に単純で覚えやすかったのでビックリしました。

本番は、リハーサルから本番まで長かったのでそこまでは緊張しませんでした。でも、自分達の出番の一つ前にすごく緊張しました。でも、自分達の番になってなぜか、緊張がなくなりました。

そして、本番では、調子はすごく良いとまではいかなかったけど、まあ、最後までとおせたので良かったです。

インタビューでは、リハーサルと全ぜんちがう事を聞かれて、とまどってしまって、変な事を言ってしまったけど、まあ、おかしいと思われなかったのが良かったです。

東京の観光で一番思った事は、人が多い事です。益田の祭りで集まるより少し多いぐらいの人が、祭りがなくて、普通の時に集まっていたのでビックリしました。まあ、よい経験になったので良かったです。

中学1年生 豊田敬蔵（手拍子）

東京に行きました。バスで行きました。十三時間くらいかかったけど東京に行きました。東京スカイツリーも見ました。でかかったです。二日目には、公えんしました。グラントウくらいの方がいてきんちょうしました。だけど15分がおわってホッとしました。

次、東京に行くことになったら小だいこくらいは、たたけるようにしたいと思いました。帰りは、東京バナナをかいました。みんなとよる一時くらいおきていました。

島根につくとすこしさびしいきもちになりましたが家につくと東京バナナを食べながら東京のことをはなしました。